



地空楼

2007.5-2008.5

所在地 岐阜県美濃市曾代88
岐阜県立森林文化アカデミー地内
建築面積 17.94㎡(5.41坪)
設計・施工 岐阜県立森林文化アカデミー
木造建築スタジオ
杉原 徹平(七期生)
粟野 彰太(七期生)
山崎 直子(七期生)
三澤 文子(教授)
小原 勝彦(講師)
辻 充孝(講師)
指導 松森建設
総工事日数 70日
参加総人数 101人(638人工)
総工事費 175万円

岐阜県立森林文化アカデミー 木造建築スタジオ
〒501-3714 岐阜県美濃市曾代88TEL 0575・35・
3889/FAX 0575・35・3890Mail
studio@forest.ac.jp/URL www.forest.ac.jp

ネイチャートレイル・連結施設

学内に配されたネイチャートレイル(自然の小道)上にはフォアローが点在しているが、活用されずに放置された最後の「黒の迷路」を自力建設により浮き彫りにしたい。

そこで、「黒の迷路」の活用、この建物が建つレベルから一段上がったフィールドをつなぐ階段の機能、そしてフィールドで行われる炭焼き体験時等の休憩場所としての機能を併せ持った、「連結施設」を建設する。あわせて、この連結施設も含まれることになるネイチャートレイルを学内に形成し、環境教育に活用することを目的とする。

地空楼

閉鎖的空間であるが故に使用されにくかった「黒の迷路」に対して、「ネイチャートレイル連結施設」を開放感溢れる施設に仕立てることで、その対比から前者が持つ良さを顕在化させてあげようという提案である。

そして、長良川方面への景色の良さを活かして、その気持ちよさを助長すべく、上のフィールドから床を斜面地へせり出す。落差2.5mの斜面は、昇降時に風景がユックリと変化する回り階段で降り、土の階段を介して地面へと着地し、そのまま「黒の迷路」へとつながっていく。

構造は、四方通し貫構法で、壁をなくしても必要な耐力を保持できるため、建物内部に開放感を生む。さらに、貫と貫の間には可動式展示パネルを架けることができ、展示内容と対象によって自由に場所を移動させることができる。これは、当施設ならではの展示方法を展示者が探るとい意味において、環境教育を学ぶ本校学生に対する設計者側からの挑戦でもある。『地空楼』という名前は、大地と空をつながんとしてそびえ立つ木造建築、という力強さを表現して名付けた。



2007.05.21 地盤調査



2007.07.23 樹木移植



2007.08.18 基礎工事



2007.08.27 木材刻み



2007.09.19 建て方



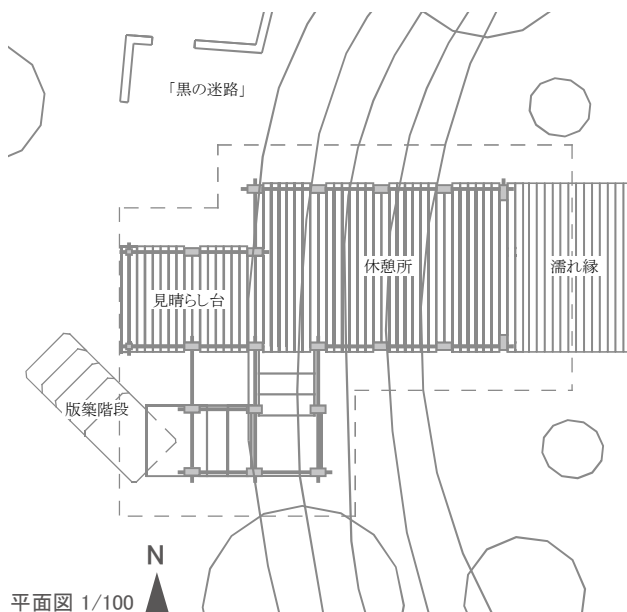
2007.12.17 屋根工事



2008.05.13 版築工事



地空楼 竣工式



PLAN

上のフィールドを歩いて来たときには骨組みが折り重なって見え、近くまで来ると濡れ縁、床、見晴らし台、対岸の山へと視界が通るよう配置計画した。また、日射を遮り、風の通り抜ける、夏に心地良い空間を目指して「四方通し貫構法」を用いているが、一部に間口の開口を広く取るため、「門型ラーメン構法」を用いている。

回り階段では、踊り場から梅の実を収穫できる。続いて、地面へと降り立つ階段は「版築」で作り、ネイチャートレイルの醍醐味である踏む感触を楽しんでもらいたい。

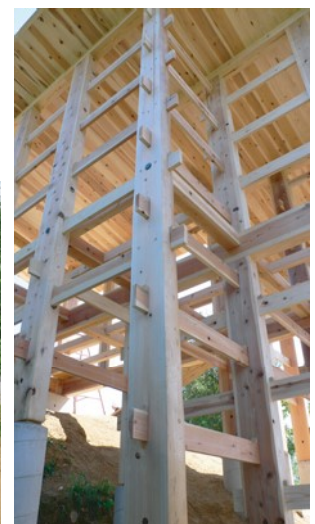
基礎については、コンクリートの見える部分を極力減らし、それぞれの柱の垂直性を見せるために、独立基礎と地中梁方式を併用している。また、基礎と貫の間を通して土の斜面に近寄りたり登ることもできる。



地空楼内部



木製階段と版築階段



四方通し貫構法